

# 古河電工

## らくらくアルミケーブル 官公庁で初採用

### 24年度売上高20億円へ

古河電気工業とSFC（本社川崎市、黒須光明社長）は30日、高性能型低圧アルミ導体CVケーブル「らくらくアルミケーブル」が官公庁案件で初めて採用されたと発表した。この製品は導体にアルミ、絶縁被膜に柔軟性架橋ポリエチレンを採用したもので、軽くて柔らかいといった特長がある。2024年度までに売上高を20億円に拡大する考えだ。

らくらくアルミケーブルは、銅導体CVケーブルに比べ、質量が約3倍、曲げやすさが約3倍といった特長がある。また、端末処理を効率よく施工できる圧縮・圧着端子や端子台などの専用工具を「らくらくアルミケーブルシステム」

今回、官公庁設備の電源供給用で初めて採用された。曲がりの多いルートでの延線にも

かかわらず、延線作業が予定の3分の2の時間で終わるなど作業効率が向上した。官公庁では日本産業規格（JIS）の認証

り、アルミ導体ケーブルは日本電線工業会規格に規定されている。この案件では、アルミ導体ケーブルが従来の銅導体ケーブルと同等の品質と判断され採用に至った。本年4月には開発と製造を担う古河電工産業電線（本社東京都

荒川区、白坂有生社長）が平塚工場（神奈川県平塚市）に技能訓練センターを開設した。ケーブルの皮剥きからアルミ端子の接続までを学ぶことができ、テストに合格すると技能講習修了書が発行される。

このほど、ケーブルの延線を体験できるコーナーを新設。ケーブルラック上に電線ケーブル用の可とう管路材エフレックス内にらくらくアルミケーブルをはわせ、引き回しやすさを体験できるようにした。今後も省施工性と安全性をヒールし、さらなる拡販を図る方針だ。



らくらくアルミケーブルシステム